

ガンゴートリー巡礼の旅をととして

2013 年 5 月 16 日（木）～5 月 30 日（金）

鈴木智子

1 日目 5 月 16 日（木）天気 晴れ

PM 5:55 分成田発 JAL NH917 便 ～ 9 時間 45 分飛行 ～ デリーへ

AM 0:10 分 現地時間 デリーへ到着（日本時間より－3.5H）

バスに荷物を運び入れるスタッフ（デリー空港にて）



AM 1:00 TAJ PALACE ホテル宿泊先へ

AM 1:30 これからの説明、両替等

AM 2:00 各自、宿泊室へ

デリーの空港を降りると、突然、鼻の中をツーンとおる熱気と香辛料の香り、昼間の気温 44 度だったそうだ。

夜になっても、熱気は冷めない。

空港自体は広く、まさに大都市インドを代表するデリー国際空港に着いた。

空港には、アニールさんご夫妻、メルナール君、出迎えてくださる。

木村慧心先生に対する尊敬の思いがアニールさんとても厚く、普段、重役さんで、出迎えていただく立場なのに、木村慧心先生に接する態度等を拝見していると、ある意味、引き締まって、まさに全信頼をしている様子が体全体からにじみ出ている。

海外にもこういう手足となって、奉仕してくださる方々がいることに驚き。話には聞いていたが。

私は初めてのインド、緊張のせいか、疲れもさほど感じず、現地のスタッフさん、アニールさんご夫妻のおかげで、手続き、バスの手配等スムーズに運ばれ、ただ、ただ、感謝。これから、「さー頑張ろう」と気持ちを新たにしたところ。

宿泊先までは、バス 2 台で行く。

途中、信号機があり当たり前の景色だと思っていたのが「前はなかったのにー」という声。

また、携帯電話をしながらの運転、シートベルトの閉め忘れ、両方とも罰金だそうだ。

途中、官庁街、日本大使館前をとおり、目指すは今夜の宿泊先、5 つ星デリーを代表するホテル TAJ PALACE。

部屋は岸先生と一緒に、さてトイレと思ったところ、全面、トイレ・風呂がガラス張り、岸

先生と 2 人、どうしようということになり、とにかく、お互いに見ないで入ろうということになった。

2 人が終わって、何かボタンがあり、ポンと押したところ、ガラス張りのところにあったカーテンが、スーッと降りてきて、大笑い。

岸先生が、いろいろドラえもののポケットのように便利なグッズを出して、使ってネ！といってください。感謝です。

打ち合わせが終わり、部屋に戻り風呂が終わったのが、明け方 4 : 00 時、ここで緊張がほぐれ、アッという間に熟睡できた

6 時には起床だ。

2日目 5月17日(金) 天気 晴れ

デリーTAJ PALACE ホテルより→リシケシへ(バス移動)

夜 宿泊: AMARIS ホテル

AM8:25

TAJ PALACE ホテルを出発(全員写真撮影)

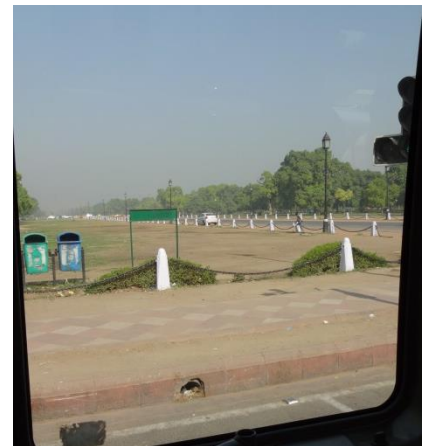


バス移動、同行してくださるのは、トラベルミトラの川上さん、アバタールシンさん(シーク教)。

途中、「インド門」の前を通る今でも大統領が通る道、どこまでも続く広い道路。長さは4キロ。第1次世界大戦で亡くなられた方々の名前が書いてあるそうだ。

これだけ広大な土地、皇居でもこの半分以下、さすが、マハーバーラタ。

道中、青色の綺麗な花「ジャカランタの花」と、赤い花「ファイヤーツリー」が咲いており、緑一色の景色の中で、ホッとさせてくれる。



お昼 PM0:30、ムールチャンドで「ドーサ」と「チャイ」をいただく。

「ドーサ」は、南インドの料理だそう、焼き立てパリパリの皮の中に、カレーが入っており、日本人にピッタリ。とってもおいしくて、全部、いただく。

今夜の宿泊先「THE AMARIS」にて



ここで、味噌、醤油、米を集める。

旅 2 日目、寝不足で、バスで寝ようと思うと、隣の席の「池山」さんのテンションが異常に高く話しかけてくる、そのたびに目が覚める。快便、快眠。

デリーから、リシケシへの景色は、まさに、目を見張るものばかり。

道中、人、動物、車が半端なく多くあふれかえっている。

同じ道を、牛も歩けば、定員 3 名に 8 人乗りの三輪車、2 人乗りオートバイに 3 人から 4 人乗り、皆、一同に会して好き勝手な方向で進んでいる。

笑ってしまうのが、対向車線と、車線が決められているのに、なぜか、一方通行の車線に対抗車両が 1 台どころか、何台もでくわす。

町のいたるところには、露天の店がずらり、野菜屋

などは、水を掛けるが、全く新鮮に見えないし、フルーツはハエだらけ。

でも、人々は全く、気にしていない様子、のんびり、ニコニコしており、ストレスがないのではと思う、ストレスだらけの日本人と大違い。

やはり、小さい時から、信仰心がしっかりと身体に染み込んでいる。

インドはすごい、いたるところで、建設ラッシュ、そのとなりに対象的に敗れたテントが張り巡らされている。その中で人々が生活しているんだなと思うと、複雑な気持ちだが、きっとインド人は、気にしないと思う。自分自身をしっかりともっているように感じる。突如、畑の中にヒンドゥー教の「テーマパーク」が出没。日本では考えられないところに建っている。

車は、スズキの車が一番人気だそうだ。

トヨタの車も結構、見かけるし、日本車が以外と多い、あとは「TATA」さすがインド。また、荷を積んだ車が多いが、その量が半端なく多い、過積載もいいところ（日本では絶対に許可がおりない）だが、インドでは、ルールもマナーもあつてないようなところだ。信号も全くない、同じ道路を、車、牛、三輪車、オートバイ、人、同じように通っている。

また、州が変わるとその都度、ボーダータックスを払うという。

建物は、レンガが主流で、レンガ工場がいたるところにある。

また、高層建築では、日本は 3 階建て以上は、鉄筋鉄骨が多いが、インドでは、何と、鉄骨だけで、しかも本数がやけに少ない、厚みが薄い、見た目、同じ位置に柱が通っていない等々、日本の設計士が見たら腰を抜かすかも、地震があつたらどうするのかなと心配してしまう。

道路の途中、料金所があり、それも、手でバーを持ち上げている始末。

1 人で事足りるのに、1 つのゲートに、5、6 人おり、その辺で座っている。

もっと不思議なのは、有料道路のはずが、料金所を過ぎて、すぐに、人も歩けば、牛も歩いている、二輪バイクも、どこから人が通ってきたのかと聞くと、周りに道路が何本もあり、そこから入ってくるそうだ。笑ってしまう。

スタッフの方々が骨身をおしまず働いてくださっている。

荷物は、アニールさん達が用意してくれたソフトバッグに詰め替えて、スーツケースは、ニケタンへ運んでいただく。

3日目 5月18日(土) 天気 晴れ

AMAR I Sホテル(リシュケーシュ)→ウツタルカーシーへ

宿泊 ホテル SAHA J-V I L L A 35 名、FA I V E E L E M E N T S 9 名+トラベルミトラ2名

リシュケーシュ標高 300mから、ウツタルカーシー標高 1100mぐらいまで一気に登る。

AM8:00 出発 AMAR I Sホテル前にて



バスに揺れて、ひたすら山道を登る。

10キロくらい進むと、軒先に少し店が並び、また、何もない山道を登り、また、10キロくらい進むと店が並ぶという繰り返し。山道に、人が買い物をするのかなと思ってしまう。

道中、両脇、がけ崩れで、日本のようにガードレールもない。驚くのは、その山道をふつうに、人が歩いているのが不思議。どこに行くのか。

途中、AM10:30「チャンパー」のトイレ休憩による。ここで、チャイをいただく。

ひたすら道中、いろは坂ならぬ、山道を登り続けたが、酔う人はいない。

後で聞いた話では、2班で一人いたそう。氏は不明。

お昼は、PM1:00頃「Chinyali Saur」にて、ダールカレーをいただく。



PM4:00 頃に、今夜の宿泊先 SAHA J-V I L L A 35 名 (FA I V E E L E M E N T S 9 名+トラベルミトラ2名) に到着。



荷物を部屋に置いてから、皆で、ウツタルカーシーのヨーガニケタンへ
賑わいのある繁華街を抜け、厳戒な門をくぐると、静観な建物、ニケタンがあった。



中に入り、聞こえてくるのは、ものすごい勢いあるガンジス川の流れの音。
「マハラジ」がおられたお部屋に一人一人、入らせていただく。
時間は異なるが、同じ空間にいることに、体身も心も引きしまる。
神様に対する強い畏敬の念が、伝わってくる思い。
ニケタン直ぐ横にはガンジス川、周りには、パパイヤ、ザクロの木が植えてあった。
ここは、いま、工事中（数年前の大豪雨でガンジス川が氾濫したため、ニケタンの建物も、
水浸しになったそう）ということで、中までは入ることはできませんでした。



マハラジは、ここからガンゴートリまで、2、.3週間かけて歩いていかれたそう。
木村慧心先生がよくおっしゃる、行者さんは、肉体的にも勿論精神的にも健全でなければ
ならないことを、身を持って教えてくださっている。これはほんの数年前のことなんだ。
ニケタン訪問が終わって、その足で、木村慧心先生、岸先生、アニールさん、私の4人で、
ラムスワループさんを訪問。脳梗塞をされたとのことだったが、お元気なご様子、後遺症
もほとんど、ないようです。場所は、ウツタルカーシーのガンジス川が目の前に流れてい
る、静かなところ、ヨーロッパ人の方がお世話をされている。
木村慧心先生がニケタンにて修行されている時からの知り合い、それ以来のお友達
木村慧心先生は、とても、人との関わりを大切にされるため、どこにいかれても人が寄っ
てくる、好かれる、知り合いがとても多い。人脈は、絶対にお金では買えない。



この日の夕食より、高山病に備えて「ダイアモックス」を飲む（半錠、残り半錠は翌日
の昼に）飲んで、1時間ほどすると、手先がビリビリとしびれてくる。